

暮らしを支える電力の安定供給を守り抜くために……

# 「電気は絶対に止めない」決意で配電の保守、円滑な運用を目指す

**不測の事態に備え  
配電設備の維持管理、  
系統保守に臨む**

発電所から送電される電気は、最終的には配電用変電所を経て、6600ボルトまで下げられる。一般家庭には、電柱などに設置された変圧器で200ボルト、100ボルトまで変圧された後に、引込線を通じて届けられる。配電線は、毛細血管のように張り巡らされており、1カ所のトラブルが広範囲の停電を誘発する場合もある。それだけに配電部門では「電気は絶対に止めない」強い決意を持って安定供給を守る使命を担う。定期的な巡視や点検はもちろん、常に万全を期して設備の維持・管理に取り組んでいる。

中部電力静岡支店島田営業所配電

課の青野美穂も、暮らしを支える電気を守る一人だ。

島田営業所の管轄区域は、北は山間部の川根本町から南は牧之原市の臨海部まで南北に長く伸びている。山では台風などによる倒木や土砂崩れによる、電柱の倒壊や配電線の断線が発生、海沿いでは塩害による設備の腐食やサビが発生しやすく、緊急対応に迫られる場合が多い。青野らは、常にそうしたさまざまなケースを考え、迅速な対応ができるよう24時間365日体制で備えている。万一、設備の故障や異常が発生した場合、異変を感じし配電線を自動停止させるシステムが機能する。その際、原因箇所を特定し、問題のない箇所に速やかに電気を復旧させるのも、青野たち配電課の仕事だ。

「電気は暮らしを支えるライフライン

イン。『1秒でも早く停電を復旧したい』その一心で、停電範囲を少しでも狭くするために、問題のない箇所への送電を行ったり、現地での復旧作業に備えて電気の流れを切り替えていきます」

また電柱や配電線に破損や断線などのアクシデントが起きた場合、青野の系統運営グループが通報の窓口となる。

「電線が切れている」「電線に異物がぶら下がっている」「鳥が電柱に巣を作っている」「伸びた木の枝が電線に接触している」など、日常的にさまざまな通報が舞い込んでくる。

「切れた電線に誤って触れてしまうと感電事故につながる危険があるので、まずは安全確認のために技術サービスの担当者を現地に派遣する

とともに、詳しい情報を集めつつ、状況によっては遠隔操作で電気を止めるなど、安全確保の徹底に努めています」

緊急時は一刻でも早く電気を復旧させたい思いから関係者に焦りが募る。そうした場合の青野の対応について同僚はどう見ているのか。

「普段はおっとりした性格の青野さんですが、無線指令は非常に冷静で的確。緊急時こそ、落ち着いて復旧作業に臨む必要があるため、青野さんの冷静さが、早期復旧や安全確保につながっています。また強風や激しい雨の厳しい環境下で復旧にあたる現場を気遣う言葉や、青野さんの柔らかな人柄からくる柔らかな言葉遣いが、現地の担当者を後押しします」

また、年月を経た設備の故障によ



【静岡支店 島田営業所 配電課】

配電課(総勢40数名)は、計画・管理グループ、系統運営グループ、建設グループ、技術サービスグループで構成される。青野が所属する系統運営グループ(11名)では、主に系統保守、設備管理、巡視などの業務を担う。管轄区域は、多くの水力発電所を抱える大井川を含めて、南北に広がり、静岡の玄関口である富士山静岡空港の電力供給も守っている。



青野美穂(あおのみほ)  
 中部電力静岡支店島田営業所配電課系統運営グループ勤務。静岡県藤枝市出身。3児の母。1994年中部電力入社後、静岡支店静岡営業所お客さまセンター(現・配電運営課)に配属。技術サービス、設備保守などの業務を経て、2004年に静岡支店島田営業所に異動。配電課計画管理グループで用地担当と一般支障担当(お客さまからの電柱移設の依頼に対応)を務める。'12年8月より現職。

## Voice of the spot

停電が発生した際は、早期に停電の原因箇所を特定すべく無線で現場担当者と連絡を取り合う(上)。／掘削工事前に、電力設備の埋設状況を調査する(下)。



る停電を防ぐために、配電設備の補強・交換工事などより、やむを得ず停電をお願いする場合がある。

「その際、まずは停電範囲を最小限に抑えられるよう建設グループで工事計画を作成します。その計画をもとに、工事に支障がないよう電気の流れの切り替えを検討、実施したり、現場を預かる技術サービスの担当者に電気の流れを制御するスイッチの入り切りの的確な指令を出すことも私たち系統運営グループの重要な役割です」

ほかにも、道路工事など建築、土木関連の事業者が、配電設備が埋設されている場所で工事を行う場合

は、設備を損傷しないようにその立ち会いも行っている。

**出産・育児体験を通して**

**仲間の結束力、主婦目線で**

**電気を考える大切さを痛感**

青野は静岡営業所在職中に高校時代の同級生と結婚し、長男、長女を、島田営業所に移ってからは次女を出産。仕事と育児の両立で忙しい毎日を送ってきた。

「3度の出産に伴い、出産・育児休暇を取りましたが、いずれのときも、同僚、上司に支えられて業務の引き継ぎを円滑に行うことができました。どこの営業所でもそうなのですが、配電部門のスタッフは、不測の事態や、問題が起こると、解決に向けてすぐに情報を共有し合い、全員一丸となつて早期復旧に務めるという意識が日ごろから身につけています。そうした職場環境だから、出産で長期間休むことになっても安心して出産・育児に臨むことができたんだと思います」





配電設備が埋設された場所で工事を行う施工業者の対応も重要な業務のひとつだ。



断線などお客さまからの通報を受け、冷静に情報収集し安全第一に対処する。

また、産休中にこんな経験もした。「冬の寒い日に、地元一帯が強風で停電になったんです。寒いし暗いしで心細い思いをしていたとき、中部電力の配電担当

者がさっそうと現場に現れ、電柱上で復旧作業にあたるや、たちまち周囲の家々に電気がとまりました。それを見たときは、関係者の私ですら感謝の気持ちでいっぱいになりました」入社22年となれば、中堅としてチームをリードしていかねければいけない。基本的な内容については手引き書や引継書などで細かく伝えることができるが、その業務がなぜ必要なのか、一歩踏み込んだ理解が求められる場合は、徹底的に説明することを中心がけている。

「それだけ、配電部門の業務は、お客さま一人ひとりの暮らしに直結する重要な役割を担っているからです。この仕事はルーティンで行うようなものではないことを後輩にしつ

長男、長女を出産したときは復帰後、「時間短縮勤務制度」を活用した。このときの体験を通じて、一定の時間内にかかる効率よく確実に業務を遂行するかということに努め、それが自然と仕事の質を上げていった。また、「会社から一歩出たら、一般の主婦目線、母親目線で電気や電力について考えられるようになった」と青野は言う。

「ご近所のママ友などとお話をしているても、電力の小売全面自由化で一番気になるのは電気料金であったり、オール電化は何が便利でお得なのかなど、生活に密着した観点でチェックしていることがよくわかりました。そうした皆さんの疑問や考え

は、数年前、大型の台風が島田営業所管内を直撃したときに、青野自身も改めて自覚した。各地で停電が相次ぎ、島田営業所や関連会社のスタッフだけでは対処しきれない状況になった際、直ちに名古屋や岐阜の配電マンたちが島田へ集結し、数日間泊りがけで早期復旧作業に当たってくれた。

「お客さまの利益を第一に考えながら、業務のやり方も見直さなければならぬ。しかし私たち配電の仕事は、何よりもまず安全第一を心掛ける必要があるので、すべて効率化を優先させるといわけにはいきません。コストを伴う安全性の追求と、お客さまサービス、利便性の向上にどう折り合いをつけていくかというところが、これからの私たちの課題だと思っています」

### 安全性の追求と お客さまサービス向上の 両立を目指す



電柱に設置された変圧器などに異常がないかを確認。鳥の巣作りも要注意だ。

「お客さまの利益を第一に考えながら、業務のやり方も見直さなければならぬ。しかし私たち配電の仕事は、何よりもまず安全第一を心掛ける必要があるので、すべて効率化を優先させるといわけにはいきません。コストを伴う安全性の追求と、お客さまサービス、利便性の向上にどう折り合いをつけていくかというところが、これからの私たちの課題だと思っています」